

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

予報対象期間：平成14年5月～6月

本予報は、平成14年4月24日～4月25日に開催された第33回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議において、別表の水産関係機関が検討した結果を独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたものです。

1. 本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>) 及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ (<http://www.nnf.affrc.go.jp/>) に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
電話：03-3502-8111 (内線 7376) ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室
住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5
電話：0829-55-3409 ファックス：0829-54-1216
電子メール：kiren@nnf.affrc.go.jp

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
大阪府立水産試験場
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター
岡山県水産試験場
香川県水産試験場
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所
中央水産研究所 黒潮調査研究部
瀬戸内海区水産研究所 海区水産業研究部
瀬戸内海海洋環境部
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2002年5月~6月)

(1) シラス(本年春季発生群、外海由来)

紀伊水道では2001年をやや上回るが、豊漁年の1999、2000年を下回る。

大阪湾では低調であった2001年をやや上回る。

播磨灘では2001年をやや上回るが、1999年を下回る。

2. 漁況の経過(2001年4月~2002年4月)および見通しについての説明

(1) カタクチシラス

2001年4月~2002年3月

紀伊水道東部(和歌山県側)ではマイワシシラスの比率が高く、4月は平年の約半分の漁であった。5月は平年並、6~8月は平年を上回った。秋・冬の漁は平年を下回り低調であった。

紀伊水道西部(徳島県側)では多獲期である4~6月は前年、平年に及ばなかった。対象期間の通算でも同傾向で低調に推移した。

紀伊水道北部(兵庫県側)では平年より遅れて5月から漁が始まった。6月は好漁となったが、7~8月にかけて漁獲量は減少した。秋漁は近年同様低調に推移した。

大阪湾では5月7日が解禁日であった。漁期当初から極めて低水準な漁であり、前年、平年を下回る漁であった。5月下旬になり内海発生と思われる小型のシラスがみられたこと等により漁況はやや上向きとなり、6月は好漁となった。低水準ながら8月まで漁は続いた。秋漁は近年同様低調に推移した。

播磨灘東部(兵庫県側)では6月1日に漁が始まったが、灘南部の海域に漁場が限られていたこと、内海発生群の加入を待つ等の理由により6月9日~6月11日まで自主休漁とした。再開後は広い海域が漁場となり漁況は休漁前よりも好転し、8月まで好漁が続いた。秋漁は近年同様低調に推移した。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日に漁が始まった。6~7月に年間での漁獲の85%を占める漁があったものの8月に急減し、その後はほとんど漁がなかった。このため、平年を上回ったものの前年を下回る漁であった。

播磨灘北西部(岡山県側)では昨年よりも5日早い5月20日から漁が始まった。5~8月の漁獲水準(シラスおよび小中羽込み)は1994年以降最高であった。しかし9~12月は低水準のままであった。

2002年4月

紀伊水道東部(和歌山県側)でパッチ網漁が4月8日に始まり中旬まで続いているが低調である。2001年と比較してカタクチシラスの加入時期が遅かった。漁獲物は小型のカタクチシラスが主体(全長20mm程度)である。調査船調査では全長3~23.5mm(平均8.2mm)の仔魚が紀伊水道全域で採集されている。

(2) カタクチイワシ

2001年4月~2002年3月

紀伊水道西部(徳島県側)では5~8月は平年、前年を下回った。9月にやや漁があったが、10~12月は前年並。1~3月にも漁があったが、全体として平年には及ばなかった。

大阪湾では漁期前半の7、8月には多獲されたが、9月以降は極めて低調な漁となった。年間の漁獲量は好漁であった前年には及ばなかったが平年を上回った。

播磨灘南西部(香川県側)では前年および平年を下回る漁であった。8~9月の漁獲が年間

漁獲の大半を占めていた。

2002年4月

紀伊水道外域(徳島県側)での小型定置網で1~3月の漁は前年を上回るものの、平年を下回り低調である。

(3) 外海域での産卵量

2002年2~3月に中央水産研究所等が行った産卵調査では、九州~関東までのカタクチイワシ卵の採集量は2001年同期に比べてやや少なかった。

和歌山県水産試験場が行った定線調査では、紀伊水道外域でややまとまった量の卵が採集されたが、全体的には2001年を下回った。

徳島県立水産研究所が行った定線調査では豊漁であった1999年同期と同じ水準であった。しかし、仔魚については2001年よりは多いものの1999年を大幅に下回っている。

(4) 今後の見通しの説明

シラス(本年春季発生群、外海由来)

春シラスの補給源である2~3月における外海域での産卵量は豊漁であった1999、2000年同期に比べて非常に少ないが、紀伊水道外域では2001年より多い。一方、黒潮が潮岬沖で接岸傾向にあり、外海からの紀伊水道、大阪湾へのシラス流入環境(暖水波及)は2001年と比較して良い。

紀伊水道では4月上旬に漁が始まった。漁は低調であるが、漁獲加入前の仔魚が漁場に分布しており、好適な海況が続けば漁は持続する。

大阪湾、播磨灘での漁は、外海からの来遊量に大きく影響される。2002年の来遊量は2001年を上回るものの1999年を大きく下回る。